

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		尚綱学院大学		設置者名		学校法人 尚綱学院		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
総合人間 科学部	人間心理学科	80人	中一種免(社会)	平成15年度	88人	7人	4人	0人
			高一種免(公民)	平成15年度			7人	
	子ども学科	80人	幼一種免	平成22年度	84人	83人	75人	37人
			小一種免	平成22年度			18人	
	現代社会学科	80人	中一種免(社会)	平成19年度	79人	8人	7人	0人
			高一種免(公民)	平成19年度			8人	
	健康栄養学科	80人	栄教一種免	平成17年度	78人	8人	8人*	1人
	入学定員合計		320人	合計		329人	106人	127人
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p> <p>*栄養教諭免許状取得者8名のうち2名は二種免許状の取得</p>							

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年7月9日（水）

実地視察大学：尚綱学院大学

実地視察委員：横須賀薫委員、高旗浩志委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等については、全般的に基準を満たしており、おおむね適正に実施されている。
- 教職課程の充実という観点から、検討すべき課題が見受けられたため、今後更なる発展に向けた改善を期待する。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教員養成に対する理念や構想は示されているものの、それが十分に具体化・具現化されているとはいえない状況である。また、教職課程センターについても、実務的な指導にとどまっている。一般的な言葉ではなく、理念・構想を具体化・具現化し、教職課程や教員組織が更に充実したものとなるように、学長のリーダーシップのもと、大学全体の中での教職課程の在り方や、理念・構想を検討するような全学的な組織を構築し、教職課程センターの充実を図っていただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 科目の開設状況については、既に改善に向け新しいカリキュラムが考案されており、おおむね適切に開設されているといえる。
- 一部科目において、テキスト又は参考資料に不足が見受けられたため、シラバスに追記すること。
- シラバスが全般的に淡泊であるため、学生に対する学習の手引きの役割があるということを念頭に、内容を具体化するよう努めていただきたい。

3. 教育実習の取組状況

- 学生の母校において実習を実施している状況が、幼・小・中・高において実に9割に及ぶことが確認された。大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣において、実習先を確保することが望ましい。貴学では、子ども学科において授業見学校を設定されていたり、附属学校においては実習受入れに意欲的である状況であったりするので、これらを踏まえ工夫されて、母校実習からの脱却を図るよう努めること。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職課程の履修や、就職指導あるいは就職相談といった具体的な指導・相談体制としては、教職課程センターが十分機能しており、体制が整っているといえる。具体的な指導・相談体制と、大学全体の方向性とを結びつけ、ますます発展させていくことを期待する。
- 保育・指導資料室において、教育実習に実際に行った学生の直筆の報告書が実習先ごとにファイリングされ、在学生が閲覧でき、参考にできる環境が整っている上、学習指導案等においても同様の取組を取り入れることを検討していることは、特筆すべき取組であるといえる。学生が参考に閲覧できるというだけでなく、教員が学生を指導する上での手段として活かされるよう、引き続き工夫していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 連携・協働状況が十分であるとはいえないため、教育の充実を図るためにも積極的に取り組んでいただきたい。一方で、登米市の教育委員会と連携して授業見学を実施し、その後も学生が学習支援を行っているなど、一部の関係機関とは継続的な連携状況にあることが確認された。この取組を活用し、学生を地域社会で育てていく、学生の資質・力量を育むようなプログラムに展開していただきたい。
- ボランティア活動も充実しており、学内に25のボランティア団体が存在することが確認されたが、エクステンションセンターが大半を管理しているように見受けられた。教職課程の観点から、エクステンションセンターと教職課程センターでの教職履修や教育実習等の取組とを融合していくよう、全学的な体制の見直しを学長のもとで検討していただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 図書館については、非常に明るく開放的であり、打合せ用の部屋も設置されており、学生が利用しやすい環境が整っていることが確認できた。
- 図書そのものについては、冊数が十分とはいえないため、今後の増冊をお願いしたい。
- 施設においては、理科実験室など、あまり利用されていない施設も見受けられたため、改善を期待する。

7. その他特記事項

- 学生が大変活発で挨拶がよくでき、よい気風であることは評価できる。
- 図書館で、子供向けあるいは地域の住民向けの絵本の読み聞かせが行われていることは、よい取組であるといえる。